

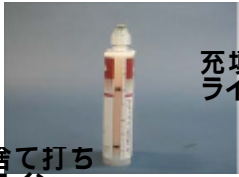
高剛性発泡充填材 ペンギンフォームハンドアプリケーションシステム作業手順書



発泡充填材ペンギンフォームハンドアプリケーションシステムは、閉断面構造体の補強を容易にすることを目的に開発した2液高剛性ウレタンフォームの簡易充填システムです。本材料を自動車等の閉断面構造体中に充填することで、重量を大幅に増加させることなく車体剛性及び操縦安定性が向上し、静粛性や乗り心地間も1ランクアップします。

1. 準備物

- カートリッジ (ペンギンフォーム^{3360S}: 400ml)
- ミキサー
- 専用エアガン
- エア源(0.4MPa(4kgf/cm²)以上)
- 保護具(ポリ手袋、保護めがね等)

2. 充填

2-1	<p>充填準備</p> <p>カートリッジを20～30℃に放置し、材料温度が20～30℃となるようにする。 △カートリッジをドライヤーやストーブで温めると中身が飛び出す恐れがありますので行わないで下さい。また、温水中に浸漬して温めると異常発泡する恐れがあるので行わないで下さい。</p>								
2-2	<p>充填量の決定</p> <p>カートリッジに捨て打ちライン(約2cm)と充填ライン(予定の充填量)をあらかじめマークする(ストロークで設定する)。 *充填ライン：下表を目安に充填容量を設定します。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;">【ストローク1cm当たりの充填容量の目安】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">3360S - 3</th> <th style="text-align: center;">3360S - 5</th> <th style="text-align: center;">3360S - 10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">充填容量(/cm)</td> <td style="text-align: center;">約75ml</td> <td style="text-align: center;">約125ml</td> <td style="text-align: center;">約250ml</td> </tr> </tbody> </table>		3360S - 3	3360S - 5	3360S - 10	充填容量(/cm)	約75ml	約125ml	約250ml
	3360S - 3	3360S - 5	3360S - 10						
充填容量(/cm)	約75ml	約125ml	約250ml						
2-3	<p>エアガンの準備</p> <p>エアガンにエアを供給し、供給圧力をレギュレーターで0.4MPa(4kgf/cm²)に調整する。 △圧力が低い場合はうまく発泡しないことがありますので、ご注意下さい。</p>								

2 - 4	<p>カートリッジの準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カートリッジのナット(白色)を緩める(2 ~ 3 回転させ、完全には外さない) 2) ディスク(銀色)を外す。 3) ナットとキャップ(緑色)を外す(材料が流出するので、カートリッジは立てておく) 4) カートリッジの先端にミキサーを装着し、ナットで締めこむ。 <p>⚠材料に直接触れないように注意して下さい。</p> 
2 - 5	<p>ガンへの装着</p> <p>カートリッジをガンにセットする。</p> 
2 - 6	<p>充填</p> <p>材料を捨て打ち(約2 cm)した後、速やかにミキサーの先端を充填穴に差し込み、充填を行う。</p> <p>⚠材料温度が低い場合や吐出圧力が低い場合はうまく発泡しない場合がありますので注意して下さい。</p> <p>⚠5 秒以上吐出を止めると材料がミキサー内で硬化し、再度吐出出来なくなることがあるので、連続して充填して下さい。</p> <p>⚠充填が終了してもミキサー内の材料が発泡し、ミキサー先端から出て人体や周辺に付着する恐れがあるため注意して下さい。</p> <p>⚠硬化時は反応熱により発熱するので、やけどに注意して下さい。</p>

3 . 注意事項

硬化前の材料は人体に有害なので、飛び散り等に備えポリ手袋や保護めがね等の保護具を必ず着用して下さい。

万一目に入った場合は直ちに流水で15分以上洗ってから、すぐに医師の診察を受けて下さい。

万一飲み込んだ場合はすぐに医師の診察を受けて下さい。

皮膚についた場合は、石鹼等で十分洗浄してください。かゆみや炎症等の症状がある場合は、速やかに医師の診断を受けて下さい。

使用に関しては、換気を良くして下さい。

人体に向けて使用しないで下さい。

本来の目的以外に使用しないで下さい。